

第88回麻布獣医学会 市民公開講座1

被災地区（震災・放射能汚染）からの ペット動物救済の現場から

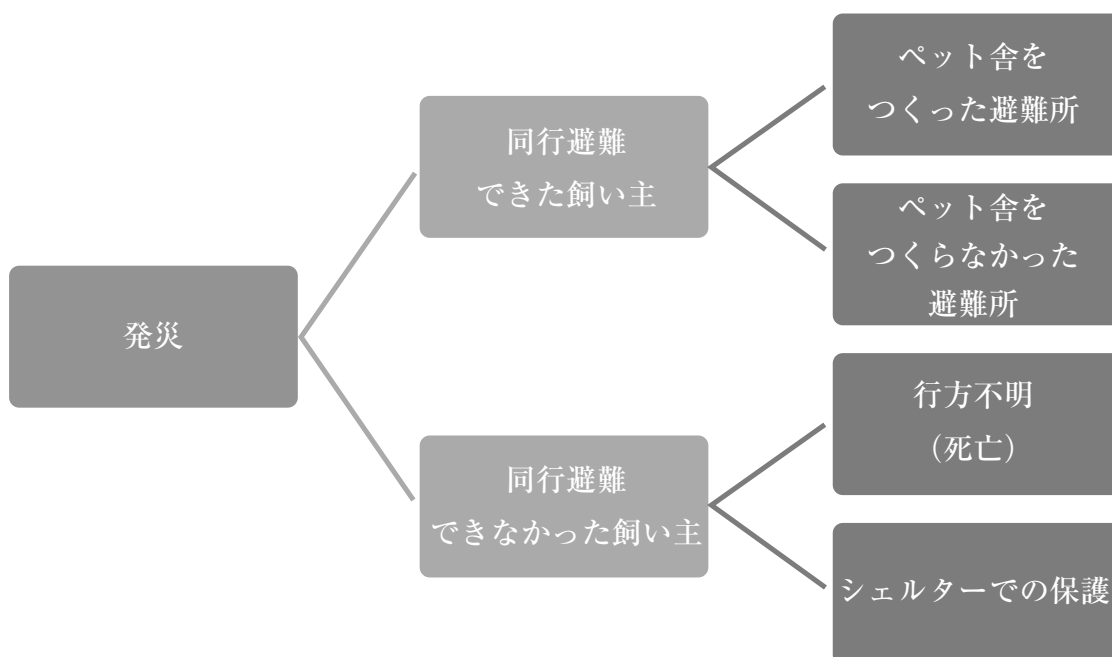
谷茂岡 良佳

動物看護師

東日本大震災における動物救援活動に関する記録や、ボランティアの活躍については少しずつ報道されるようになってきました。今後、大災害が起きたときにはきっと、再び多くのボランティアたちの活躍を目にすることができることでしょう。改正された動物の愛護及び管理に関する法律(9月施行)にも、動物愛護推進員の役割の一つとして、災害時の動物救援活動への協力が挙げられています。

しかし、発災直後に行動できるのは飼い主さん自身であることは、まぎれもない事実です。

東日本大震災では、飼い主さんたちはどのように動いたのでしょうか。



発災後の飼い主さんの行動パターンの結果ごとに、そのとき動物たちはどのような状況にあったのか、飼い主さんはどのように動いたのかを振り返ります。そして、飼い主さんと被災動物たちに、我々がどのような手助けをできるのか、考えていきたいと思っています。

■プロフィール

や も お か り よ う か
谷茂岡 良佳 (動物看護師)

ヤマザキ学園を卒業後、動物看護師として動物病院に勤務。



その後、(公財)日本動物愛護協会職員として動物愛護運動に携わる。

(公財)日本動物愛護協会では、一般の方から寄せられる、里親探し・ペットショップでの購入トラブル・しつけ方に関する相談などの電話相談に対応。相談内容は多岐にわたり、件数は1か月に200件を超えることもあった。

(公財)日本動物愛護協会の事業である「動物愛護総合講座」においては、主に以下のテーマで講師として派遣された。

- 犬猫の習性・生理・生体
- 適正飼養
- 相談に対する対応のケーススタディ
- 災害時における動物救援活動
- 老齢ペットの介護とペットロス
- しつけ方

また、緊急災害時動物救援本部事務局として、災害時動物救援活動に従事。

三宅島噴火災害では、「三宅島噴火災害動物救援センター」において副センター長補佐を務め、シェルターにおける動物の飼養管理、ボランティアコーディネイト、被災者への対応にあたった。

東日本大震災では、主に福島県第一原発20キロ圏内から保護した動物たちを収容する「緊急災害時動物救援本部福島シェルター」における被災動物の飼養管理業務にあたった。福島シェルター閉鎖後は、東京都内に設置された「東日本大震災東京都動物救援センター」の副センター長を担い、動物の飼養管理とスタッフの指導にあたった。

(公財)日本動物愛護協会を退職した現在も被災地ボランティアグループと協働し、福島県内において動物救護活動やしつけ方講習会等を継続中である。